

<「命を守る」防災教育推進事業>

「体系的・系統的な防災教育」の 充実に向けた指導資料

目次

1 はじめに	1頁
2 防災教育を通して育成したい資質・能力	1頁
3 小学校・中学校における防災教育に関する学習内容等	2頁
4 教科等における防災教育の充実に向けて	3頁
5 総合的な学習の時間における「防災教育(例)」	4頁
6 学習活動の充実を図る関係機関	5頁
7 日常的に実施する防災教育	6頁
8 「命を守る訓練」を見直すポイント	7頁
9 「命を守る訓練」の実施が難しい場面で起こる災害への対応	8頁
10 学校と家庭や地域との連携	9頁
11 地域で起こる可能性がある災害を知る方法	10頁
12 自分の防災力を知る方法	10頁
13 岐阜県で起きた災害の写真等の資料を確認する方法	10頁
14 防災に関する相談や問い合わせができる機関	10頁

令和3年2月
岐阜県教育委員会 学校支援課

1 はじめに

毎年大規模な自然災害が頻発し、南海トラフ巨大地震等の発生が予想される中、防災教育の重要性が一層高まっています。東日本大震災発生以降、県内学校においては「命を守る訓練」や地域と連携した取組が積極的に進められていますが、地域や学校間の危機意識の差や活動の固定化が課題となっています。また、平成 29 年度に告示された学習指導要領では、各教科等において防災に関わる内容が重視されており、「体系的・系統的な防災教育」の充実が求められています。こうしたことから、岐阜県教育委員会では、学校の防災教育をリードする専門性の高い教員集団「岐阜県防災教育強化チーム」を組織し、「命を守る」防災教育の普及・啓発に努めることとしました。「岐阜県防災教育強化チーム」で作成した本資料が、各学校の教科等における防災教育の充実を図る上で参考となることを願っています。

平成 29 年の学習指導要領では、学校での学びそのものが、社会で生きる力、未知の状況にも対応できる力を身につけることを指向していることが明示されています。これは、防災教育の本質でもありますし、「〇〇教育」というあらゆる教育の根幹でもあります。〇〇として取り上げる社会課題系のテーマは、教科等で学んだことを踏まえて、その課題について主体的な深い学びを促していくことがポイントになると思います。地域や外部の力をうまく借りながら、教科それぞれ、また、教科・学年横断のカリキュラム・マネジメントを通じて、共に考えていきたいと思えます。

岐阜県防災教育強化チーム委員 岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授 小山 真紀

私は 2011 年 5 月に東日本大震災派遣教員として宮城県の小学校へ赴任しました。津波の被害は甚大で地図上の町がいくつも消滅していました。当時、地元の方から次の話を聞きました。「祖先は津波の恐ろしさを伝えるために地名・民話・石碑に教訓を残している。その教訓が語り継がれている地域は避難が早く被害も少なかった。」と。東北地方には 200 以上の民話を語れる高齢者がいました。震災以降、地域の民話や伝承を記録し、教訓として後世に伝える活動が続いています。日本各地に災害を教訓とした「祖先のメッセージ」があり、岐阜県の重点である「ふるさと教育」は防災にもつながります。子どもたちには、ふるさとを見つめ、未来の安心・安全をつくり出す資質・能力を身に付けてほしいと願っています。

岐阜県防災教育強化チーム委員 下呂市立馬瀬小学校 校長 松井 健治

2 防災教育を通して育成したい資質・能力

(知識・技能)

- ・様々な自然災害等の危険性、安全で安心な社会づくりの意義を理解し、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。

(思考力・判断力・表現力等)

- ・自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。

(学びに向かう力・人間性等)

- ・防災に関する様々な課題に関心をもち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。

*防災教育を通して育成したい資質・能力は、「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育（文部科学省平成 31（2019）年 3 月） 1 安全教育の目標に示されている資質・能力」を参考にしています。

3 小学校・中学校における防災教育に関する学習内容等

小	1・2・3年生	4年生	5年生	6年生	中	1年生	2年生	3年生
---	---------	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----

生活科

学校、家庭及び地域の生活に関する内容

- 学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて学ぶ。
- 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について学ぶ。

身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容

- 公共物や公共施設、それらを支えている人々について学ぶ。

社会

自然災害から人々を守る活動

- 地域や関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを学ぶ。

理科

雨水の行方と地面の様子

- 雨水が川へと流れ込むことに触れることで、自然災害との関連を学ぶ。

社会

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連

- 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを学ぶ。

理科

流れる水の働きと土地の変化

- 長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害を学ぶ。

天気の変化

- 長雨や集中豪雨、台風などの気象情報から、自然災害を学ぶ。

社会

自然災害からの復旧や復興

- 国や地方公共団体の政治として、自然災害からの復旧や復興の取組を学ぶ。

理科

土地のつくりと変化

- 火山の噴火や地震がもたらす自然災害を学ぶ。

理科

大地の成り立ちと変化

- 自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害を、火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて学ぶ。

社会(地理的分野)

日本の地域的特色と地域区分

- 我が国の地形や気候と関連する自然災害と防災への取組について学ぶ。

地域調査の手法

日本の諸地域

理科

気象とその変化

- 気象現象がもたらす恵みと気象災害を、天気の変化や日本の気象と関連付けて学ぶ。

理科

自然と人間

- 地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について学ぶ。

体育

けがの防止

- けがの起こり方とその防止、けがの悪化を防ぐための簡単な手当などを学ぶ。

保健体育

傷害の防止

- 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること等を学ぶ。

技術・家庭科

住居の機能と安全な住まい方

- 自然災害に備えた住空間の整え方を学ぶ。

特別の教科道徳

[生命の尊さ]

- 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。(1・2年)
- 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。(3・4年)
- 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。(5・6年)

[節度、節制] [親切、思いやり] [勤労、公共の精神]

特別の教科道徳

[生命の尊さ]

- 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

[節度、節制] [思いやり、感謝] [社会参画、公共の精神] [勤労]

*本資料は、小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総編「防災を含む安全に関する教育(現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容)」を参考に作成しています。

4 教科等における防災教育の充実に向けて

教科等において防災教育の指導を行う場合、どのようなことに配慮して計画、実践すればよいのでしょうか。各学校の指導計画に生かすことができるように、計画から実践までの進め方（例）を紹介します。

□ 教科等において防災教育の指導を行う際の計画から実践までの進め方（例）

1 「防災教育を通して育成すべき資質・能力」を確認する。

（例）低学年は○○の姿、中学年は□□の姿、高学年は◎◎の姿が見られるようにしたい。

・指導に当たっては、防災教育を通して育成すべき資質・能力を確認しましょう。

2 防災教育に関する成果と課題を確認する。

（例）学校評価（活動の振り返り）
地域の実状（災害の有無）
保護者、地域等からの要望等
社会の動向（裁判の判例等）



学校評価から

・昨年度の「命を守る訓練」では、教師の指示のみで動く子どもたちの姿が見られました。児童が自分で自分の命を守ることができるように、考える力を伸ばす必要があると考えます。

職員室



3 教科等における防災教育に係る指導の視点を明らかにする。

（例）自分の命は自分で守ることができるように習得した知識を基に思考・判断する場を授業に位置付けよう。
（例）教科書に示されている災害の事例以外にも身近な地域で起きた災害の事例等を紹介しよう。

・児童生徒が教科等で習得する知識に基づいて思考・判断できるように、授業をデザインするとよいです。

4 実践

（例）小学校第4学年理科「水の行方と地面の様子」の学習では、水は高い場所から低い場所へと流れて集まるという知識を基に、ハザードマップを見てどこに避難をするとよいかを考える場を設定しよう。

（例）小学校第6学年理科「土地のつくりと変化」では、岐阜県防災教育副読本「みんなで学ぶ防災・減災～清流の国ぎふ防災ノート～」を使って、岐阜県で起きた地震や大雨の被害を学ぶことができるようにしよう。



・防災教育リーフレット2頁、「3 小学校・中学校における防災教育に関する学習内容等」で防災教育と関連の深い教科等の単元と学習内容等を確認しましょう。

・教科書を見て、防災教育の扱いを詳しく把握した上で、知識を基に思考・判断できる場をどこに位置付けるか考える必要があると思います。

職員室



・授業で成果が見られた指導は、記録として残し、道徳の全体計画の別葉のように一覧にするとよいと考えます。

5 総合的な学習の時間における「防災教育(例)」

(例)地震による災害から自分たちや住民の命を守ることを目的に課題を設定した場合

課題「命を守るための防災マニュアル」を作成して地域に発信しよう。」

カリキュラム・マネジメントの視点<他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視>

理科「土地のつくりと変化」の学習で身に付けた知識を生かす。

社会で身に付けた必要な情報を集める技能を生かす。

算数で身に付けたデータの分析整理の仕方を生かす。

国語で身に付けた目的・相手に応じた表現方法を生かす。

課題の設定

- 過去に起きた地域の地震災害を知る。
- 地震災害を経験された方の話を聞く。

資料や地域の人の話から疑問をもつ。

- 自分たちの命を守るためにできることは何かを考える。
 - ・地域のどのようなところで地震災害は起こる可能性があるか、地域では地震災害に備えてどのような取組が行われているのかを調査し、「命を守るための防災マニュアル」を作成しよう。

児童の願いから課題を設定する。

情報の収集

- 地域のハザードマップや現地視察を通して地震災害時の危険箇所を把握する。
- 防災マニュアルを作成するために必要な情報を収集する。
 - ・役場の防災担当者の話
 - ・インターネットを活用
 - ・保護者等へのアンケート
- 地域の施設を利用して地震災害に関する理解を深める。
 - ・岐阜県広域防災センターの見学
 - ・VR災害体験シュミレーター体験
 - ・地震体験装置による地震体験
 - ・防災備蓄館の見学、煙体験館



整理・分析

- 「命を守るための防災マニュアル」の作成に向けて、収集した情報を整理して分析する。

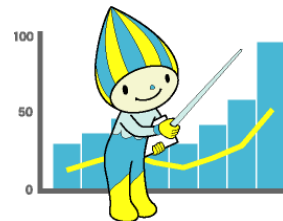


児童が思考を整理して分析できるようにする。

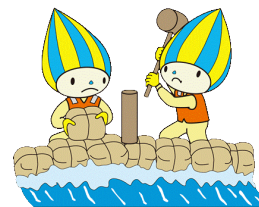
順序付け、比較、分類、関係付け、理由付け、見通す具体化、抽象化、構造化など

まとめ・表現

- 「命を守るための防災マニュアル」を作成し、保護者や地域の方に向けて発表する。



- 地域の防災訓練等に参加して、学習で学んだことを実践する。



カリキュラム・マネジメントの視点から

・総合的な時間の時間では、他教科等の資質・能力の関連を重視することが大切です。例えば、学習計画を立てる際、どの場面で他教科等で身に付けた資質・能力が発揮できるのか考えた上で授業を行います。これにより、総合的な学習の時間の授業の中で、他教科で身に付けるべき資質・能力の定着度を把握することができます。児童が他教科等で身に付けた資質・能力を発揮できていないのであれば、教科等の学習を想起させる等の支援をするとともに、教師自身が他教科等の単元指導計画や学習指導の在り方等を見直すことが大切です。

課題の設定に際して

・防災の内容を取り上げる際には、「災害を引き起こす自然現象」「時期」「対象」の3つの要素から課題を設定することができます。本事例では、自然現象は地震、時期は地震災害が起きる前、対象は地域住民としています。



6 学習活動の充実を図る関係機関

教科等における学習活動を充実するために利用可能な施設を紹介します。



□ 学習や体験ができる施設

地区	施設名	住所・電話番号
岐阜	【地震等】岐阜県広域防災センター	各務原市川島小網町小林寺 2 1 5 1 0 5 8 6 - 8 9 - 4 1 9 2
	【地震】根尾谷地震断層観察館	本巣市栃尾水鳥 5 1 2 番地 0 5 8 1 - 3 8 - 3 5 6 0
西濃	【土砂】岐阜県さぼう遊学館	海津市南濃町奥条 0 5 8 4 - 5 5 - 1 1 1 0
	【水害】大垣市輪中館	大垣市入方 2 丁目 1 6 1 1 番地 1 0 5 8 4 - 8 9 - 9 2 9 2
東濃	【水害・土砂】阿木川ダム防災資料館	恵那市東野字花無山 2 2 0 1 番地 5 7 0 5 7 3 - 2 5 - 0 0 4 6
飛騨	【土砂】岐阜県国土交通省神通砂防資料館奥飛騨さぼう塾	高山市奥飛騨温泉郷中尾 2 - 3 4 0 5 7 8 - 8 9 - 2 1 3 3

岐阜県広域防災センター

- ・地震体験、消火体験、液状化現象実験等、地震の仕組みや防災訓練を体験することができます。
- ・風水害、雪害、火山、消防団、災害への備え等を展示パネルから学ぶことができます。
- ・岐阜県内の活断層や地震の歴史を学ぶことができます。



学習活動が充実すると考えられる教科「単元」

生活科 「地域に関わる活動」
 社会（小学校）3年「地域の安全を守る働き」 4年「自然災害から人々を守る活動」 5年「我が国の国土の自然環境」
 社会（中学校）地理的分野「日本の様々な地域」 公民的分野「私たちと現代社会」
 理科（小学校）5年「天気の変化」 6年「土地のつくりと変化」
 理科（中学校）1年「大地の成り立ちと変化」 2年「気象とその変化」 3年「自然と人間」
 技術・家庭 「住居の機能と安全な住まい方」

岐阜県さぼう遊学館

- ・土砂災害の映像や3D映像による疑似体験を通じて土砂災害の恐ろしさを学ぶことができます。
- ・土砂災害の恐れのある場所や、降雨時の避難を判断するための情報を学ぶことができます。
- ・岐阜県内のハザードマップを用いて、DIG（災害図上訓練）を行ったり、土砂災害クイズに挑戦したりすることができます。



学習活動が充実すると考えられる教科「単元」

生活科 「地域に関わる活動」
 社会（小学校）3年「地域の安全を守る働き」 4年「自然災害から人々を守る活動」 5年「我が国の国土の自然環境」
 社会（中学校）地理的分野「日本の様々な地域」 公民的分野「私たちと現代社会」
 理科（小学校）4年「雨水の行方と地面の様子」 5年「流れる水の働きと土地の変化」「天気の変化」
 理科（中学校）1年「大地の成り立ちと変化」 2年「気象とその変化」 3年「自然と人間」

7 日常的に実施する防災教育



学校で行う教育活動には、防災教育に関連する内容が多くあります。教員が防災教育と関連があることを意識して児童生徒に指導をしたり、現在行っている活動に少し工夫を加えたりすることで防災教育が充実します。

「自助・共助・公助の視点から教育活動を見直してみよう」

普段行っている教育活動を、危険に際して自らの命を守り抜くための「自助」、自らが進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献できる力を身に付ける「共助、公助」の視点から見直すことで、防災教育との関連や防災教育の充実に向けて工夫できる点を明らかにすることができます。

給食

- 学校の備蓄庫には、どんな非常食があるのか。写真や実際に見て確認する。



備蓄庫にある非常食



備蓄庫にある非常食

環境

- 地震が起きた際、危険が生じないように教室等を整備していることを紹介する。
- 避難経路図を頼りにして、避難場所やAEDの設置場所などを確認する。



飛散防止フィルムの貼り付け作業の様子



拡大

備品の固定



拡大

備品の固定

避難経路



避難経路図



AED

登下校

- 「もし、この壁が倒れてきたら…」 「仲間がけがをしたら…」を想定する。
- 「防災倉庫」や「避難場所」等を確認する。



防災倉庫



防災倉庫の備品を確認の様子



防火水槽を確認の様子

- 通学路に防災倉庫があります。通学路点検の際に紹介するとよいです。通学路点検の後には、倉庫に入っている主な備蓄品を紹介しましょう。

- 地震が起きた場合を想定して学習用具の片づけ方等を児童に考えさせるようにしましょう。

職員室



- 〇〇地区は、避難場所が学校ではなく、□□公民館なので、通学路点検の時に知らせておくことが大切です。

- 道徳の教科書には、自然災害を取り上げた資料が多くあります。〇月に実施する「命を守る訓練」と関連付けて指導するとよいと思います。

8 「命を守る訓練」を見直すポイント



災害発生時に、子どもたちが自ら判断し行動できるようにするためには、どのような訓練を実施していくことが大切でしょうか。自校の「命を守る訓練」を見直してみましょう。

改善の視点	チェックポイント	「命を守る訓練」実施の改善例
①災害種別	<input type="checkbox"/> 地域や学校の実情、過去の災害の経験や教訓を生かした災害種別の訓練が位置付けられていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の氾濫による浸水害を想定 ・避難後に避難所の開設等の体験 ・大地震からの火災及び停電を想定
②災害発生時刻	<input type="checkbox"/> 様々な時間帯を想定した訓練になっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・登校中または、登校直後 ・休み時間中 ・異年齢集団による活動等の時間中 ・スクールバスの運行中 ・掃除の時間中
③活動場所	<input type="checkbox"/> 様々な活動場所を想定した訓練になっていますか。	
④活動状況	<input type="checkbox"/> 学年や学級、全校の集団活動のほか、一人一人が学校敷地内に散在している状況を想定した訓練になっていますか。	
⑤条件設定	<input type="checkbox"/> 停電や校舎の損壊、悪天候など、様々な条件下を想定した訓練になっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・停電のため、放送機器が使用できない想定 ・校舎損壊のため、複数の階段を使用不可にして実施

※詳しくは、「防災教育の手引き」（平成26年3月 岐阜県教育委員会）の第5章3「命を守る訓練指導事例」を参照ください。



「命を守る訓練」を実施するにあたり、子どもたちにどのような指導を行っていますか。「命を守る訓練」の実施前や実施後の指導内容を見直してみましょう。

場面	チェックポイント	実施前や実施後の指導内容例
実施前	<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容と関連付けた指導を行っていますか。 <input type="checkbox"/> 災害種別に応じて、どのような被害をもたらされるのか、どのような状況になり得るのかを教えてください。 <input type="checkbox"/> 災害種別に応じて、安全行動の具体的な内容を教えたり、考えさせたりしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の災害における記録から、被害やその状況を理解する場を設定する。 ※災害の写真や映像等を提示する場合は、発達の段階を踏まえて児童生徒に精神的な負担をかけないように十分に留意する。 ・校舎一部が損壊した場合、どのように避難すればよいのかを考え合う場を設定する。
実施後	<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容と関連付けた評価を行っていますか。 <input type="checkbox"/> 自ら判断し行動した姿を価値付けていますか。 <input type="checkbox"/> 防災意識を高める工夫を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しゃべらない」、「走らない」、「避難に要した時間」等の評価にとどまらず、状況に応じて行動できた姿を認める。 ・防災グッズや防災関連施設、当該市町村のハザードマップを紹介するなど、家庭や地域の取組を想起させる。

※全職員で共通理解するとともに、学年段階に応じたものになるように工夫しましょう。

9 「命を守る訓練」の実施が難しい場面で起こる災害への対応

「命を守る訓練」の実施が難しい場面として、「登下校」「給食時間」「掃除時間」「休み時間」等が考えられます。ここでは、児童生徒がそれぞれに、自分で判断しなければならない可能性が最も高いと考えられる「登下校中」の「地震の発生」を想定した対応例（指導例）を紹介します。

□通学路の確認

「通学路の危険箇所を地域の方、児童生徒一緒に歩き、確認しましょう」

地域の危険箇所について、一番よく知っているのは地域で長く生活してみえる方です。できる限り地域の方に同行いただき、児童・生徒と教員と一緒に歩いて「通学路の危険箇所を確認する」とともに「それぞれの場所での災害時の身の処し方について一緒に考える」機会を設けましょう。確認した危険箇所等は、記録に残しておきましょう。また、警察、教育委員会、道路管理者等の関係機関と連携して、速やかに危険箇所の改善に向けた取組を実施することが重要です。

【確認（指導）するポイント（例）】

- 危険な場所はないか
 - ・倒れてきそうなもの（建物、壊れそうな壁、倒れそうな木等）はないか
 - ・上から落ちてきそうなもの（看板等）はないか
 - ・山崩れ、がけ崩れの可能性がある場所はないか
 - ・車と接触する可能性がある場所はないか
- 安全な場所はどこか
 - ・倒壊等の危険がなく、広く、安全な場所はどこか
 - ・助けを求められる場所（子ども110番の家等）はどこか
 - ・人が集まれる場所（集会場、避難場所等）はどこか



□地震が発生したら

「まずは自分の身の安全を確保することを指導しましょう」

実際に地震が発生した場合、まずは自分自身の身の安全を確保することを最優先に考えられるようにする必要があります。具体的には、次のような点を確認しておきましょう。

【確認（指導）するポイント（例）】

- 自分の身の回りに危険はないか
 - ・可能な限り広い土地の真ん中に立つ（身をかがめる）こと
 - ・頭を守ることが最優先
 - ・揺れが収まるまでは移動しないことが原則（倒れてきそうな物等があるのであれば対応は別）
 - ・足元の危険（地割れ等）も確認すること
 - ・周りの様子に目を向け続けること（車等が突っ込んでくる可能性も）



□揺れが収まったら

「周りの様子を確認しながら、より安全な場所に移動することを指導しましょう」

大きな地震であればある程、余震の可能性も大きくなります。移動すべきか、その場にとどまるべきかを一律に示すことはできませんが、次のような点を確認しておく必要があります。

【確認（指導）するポイント（例）】

- 安全に移動できそうか
 - ・距離と経路を考え、移動するかとどまるかを検討（火災の発生、切れた電線、道路の遮断等、移動しない方が安全な場合もある）
- 近くにいる仲間と協力する
 - ・近くに大人がいれば、移動した方がよいかを相談
- 身動きが取れない場合は、まわりに伝える
 - ・大きな声で叫ぶ、防犯ブザーを鳴らす等

10 学校と家庭や地域との連携

学校と家庭や地域との連携について、令和元年7月に安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞した御嵩町立上之郷小学校の実践の一部を紹介します。家庭や地域と連携をして防災教育を推進する際の参考にしてください。

□ 家庭との連携

- 町のハザードマップを基にした避難場所及び持ち出し品の確認
- 家庭と連携した「命を守る訓練」の実施
- 災害に応じた児童引き渡し訓練の実施
- 親子登下校による通学路の安全確認及び安全マップの作成
- 減災を意識した環境整備作業の実施
- 防災意識を高める保護者対象の防災教育講演会の実施

家庭との連携のポイント

- ・保護者参加型の「親子防災学習」を実施する。
- ・各家庭で取り組める「減災力テスト」等の活動を位置付ける。
- ・防災に関する学習を授業参観で公開する。



【親子で持ち出し品を確認したり、非常食を試食したりしている様子】

□ 地域との連携

- 地域と連携した「命を守る訓練」の実施
- 町の防災訓練への教職員及び児童の参加
- 県・町の防災担当部局との防災についての連携体制の構築
- 地域住民が参観できる防災教育授業の公開
- 避難所開設時の学校と町の協力体制の構築
- 避難所運営組織の明確化及び支援体制の構築

地域との連携のポイント

- ・学校の防災教育に関する取組を市町村の防災担当者、地域防災リーダーと協力して実施する。
- ・学校の防災教育に関する取組を地域に発信する。
- ・地域の防災訓練に児童生徒及び教職員が参加する。



【地域の防災訓練に教職員と児童が参加している様子】

□ 教職員の共通理解・共通行動に向けて

- ・職員会議等において、防災教育に関する職員研修を行う。
- ・防災教育に関する指導案や板書、資料等を確実に保管し引き継ぐ。



1 1 地域で起こる可能性がある災害を知る方法

【岐阜県】 岐阜県総合防災ポータル	https://www.pref.gifu.lg.jp/bousai/
【岐阜県】 ぎふ山と川の危険箇所マップ	https://kikenmap.gifugis.jp/



出典：ぎふ山と川の危険箇所マップ



・「ぎふ山と川の危険箇所マップ」では、調べたい地域の郵便番号等を入力すると、山や川の危険箇所等の情報を確認することができます。

【国土交通省】 ハザードマップポータルサイト「わがまちハザードマップ」	https://disaportal.gsi.go.jp/
-------------------------------------	---

・「わがまちハザードマップ」では、調べたい市町村名を入力すると、市町村のホームページに掲載されているハザードマップを確認することができます。

1 2 自分の防災力を知る方法

減災教室	http://gensaikyoushitsu.sakura.ne.jp/
------	---





Q4. 重い家具や本だながたおれてこないところ、ガラスや照明がわれて落ちてこないところに、自分や家族はなえていますか？


はい 少し いいえ



・「減災教室」のアプリを使用することで、自分の地震・風水害・土砂災害に対する減災力を確認することができます。

1 3 岐阜県で起きた災害の写真等の資料を確認する方法

災害アーカイブぎふ	http://gifu.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/ecom/
-----------	---





災害資料を見る (ダウンロード)

災害アーカイブぎふで収集した災害資料の一部を、一覧で見ることができます。ダウンロードすることもできます。

[資料を見る](#)

1 4 防災に関する相談や問い合わせができる機関

清流の国ぎふ防災・減災センター	501-1193 岐阜市柳戸 1-1 058-293-3890
岐阜県広域防災センター	501-6023 各務原市川島小網町小林寺 2151 0586-89-4192

「体系的・系統的な防災教育」の充実にに向けた指導資料 作成協力者

岐阜県防災教育強化チーム委員

- ・小山 真紀 岐阜大学流域圏科学研究センター准教授
- ・松井 健治 下呂市立馬瀬小学校 校長
- ・猪俣 哲夫 郡上市立北濃小学校 教頭
- ・吉田美恵子 御嵩町立上之郷小学校 教頭
- ・石田 幸子 岐阜市立徹明さくら小学校 教諭
- ・小西 香織 岐阜市立早田小学校 教諭
- ・本間 祐一 各務原市立那加第二小学校 教諭
- ・大竹 美保 山県市立高富小学校 養護教諭
- ・今井 良昌 岐阜市立加納中学校 教諭
- ・林 万由佳 岐阜市立三輪中学校 教諭
- ・羽田野利恵 岐南町立岐南中学校 教諭
- ・杉野 翼 大垣市立興文小学校 教諭
- ・日比 薫 垂井町立宮代小学校 養護教諭
- ・松浦 亮太 揖斐川町立揖斐川中学校 教諭
- ・竹中 聖文 大野町立大野中学校 教諭
- ・瀬瀬 雅守 可児市立旭小学校 教諭
- ・高木 良太 白川村立白川郷学園 教諭

この他、本資料の編集全般にわたり、岐阜県教育委員会学校支援課指導主事及び各教育事務所指導主事が担当した。